

太田市自分ごと化会議 2023
からの提案
～公共交通～
(概要版)

令和6年3月

I. 「今」の公共交通の課題と改善案を挙げる。

1. 地域公共交通事業の周知について

「課題」	公共交通のPRが不足している。 市民の公共交通に対する問題意識の醸成が必要である。
------	--

課題を解決するために		
住民の 役割	個人	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 太田市の情報発信に触れるようにする。興味を持つ。 ➤ 日頃から公共交通を利用する。 ➤ 親戚や知っている高齢者など、知り合いに公共交通を教える(40代、50代くらいの方にも)。 ➤ 親子で乗る機会を増やす。移動手段の選択肢の一つとして認知するなど。
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ➤ チラシ・回覧板・掲示板などで周知する(効果が見込める場合には、小中学校などでもチラシ配布)。 ➤ 口コミで広げる。互いにコミュニケーションをとって情報収集する。 ➤ それぞれの世帯を把握している区長、隣組長に説明してもらう。何かあれば、区長、隣組長を通して相談してもらい、その代わりに、区長・隣組長の手当を充実させるなど。
行政の役割		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 若者から高齢者まで、様々な年代をカバーできるように、情報発信のやり方を検討し、強化する(SNSの活用、人が多く集まるイベントでメリットを紹介する)。 ➤ 行政主導で、公共交通に乗った時のインセンティブを付ける(スーパーで買い物したら、バス割引などのメリットを付けてみる。公共交通に乗るとポイントが貰えて、そのポイントで太田市内での買物ができるようにする。) ➤ (周知の際は)封筒ではなく、はがきを送る(はがきであれば開ける手間がない)。 ➤ バスに目立つラッピングを試みる。 ➤ アニメキャラクターとのコラボレーション企画で、公共交通機関で観光地をまわるスタンプラリーを実施する(学生をターゲットとして長期休暇中に開催する)。 ➤ 公共交通利用促進デーを制定して、市民の利用度をアップさせるなど。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ➤ プロバスケットボールチームと公共交通のコラボレーション企画を実施して、PRする。

2. 現在の公共交通事業について

(1) おうかがい市バス

《課題》	乗り合い率が低いため、費用対効果が低い。 事業の持続性を考えた時に受益者負担が低い。 対象者に対して周知が不足しているため、利用率が低い。
------	---

課題の改善案	
➤	利用対象を広げて、料金を負担する(高齢者や体の不自由な方は無料)。
➤	対象を学生まで広げ、事前申し込み制のおうかがい市バスの部活送迎を行う。
➤	乗り合いにこだわらずに、タクシーとして運用する。
➤	乗り合い率が低いのであれば、ミニバンから普通車や軽自動車等への車両の変更を検討する。
➤	市の負担増を少しでも補うため受益者負担を増やす。
➤	周知のため、月に1回無料で利用できるようにするなど。

(2) シティライナーおおた

《課題》	赤字路線があるにも関わらず、受益者負担が低い。
------	-------------------------

課題の改善案	
➤	利用が少ない大型バスの運行は取りやめ、おうかがい市バスで補填していくことを考える。
➤	土日祝にバスなどを運行する。土日祝は営利目的で良いので利用を増やして路線維持ができるようにする。中高生の移動機会の増加が図れる。ただし、学生の負担軽減を図る目的で、長期休暇期間のみ無料にする。
➤	統計を取り、利用者が0人に近い時間帯は廃止するなど。

(3) 市営無料バス

《課題》	1便あたりの乗車人数が低く、効率的な運用ができていない。
------	------------------------------

課題の改善案	
➤	事前申し込み制の市営無料バスでの部活送迎を行う(例えば、土、日、祝日のみ)。
➤	利用者や市民に対してアンケート調査を実施し、制度のあり方を検討する。
➤	鉄道との乗り継ぎの利便性を向上させて、乗車人数の向上を図る。

II. 「将来」の公共交通に対する懸念と検討すべき視点を挙げる。

1. 超高齢社会に向けて

「懸念」

今後、団塊の世代が後期高齢者になり、その子ども達の世代も高齢化したとき、高齢者(障がい者)の移動手段の確保が課題になってくる。また、免許返納を促進するのではなく、高齢者が安全に運転できるような取り組みも重要である。一方で、免許返納を考えている高齢者にとっては、免許返納のメリットを伝え、高齢者が安全に楽しく過ごせる環境づくりが必要である。

検討すべき視点

- 通院の際など、病院とバス・タクシー会社が連携し、診察の予約と同時におうかがい市バスの予約を取ることができるようにするなど、現行の取り組みに病院を連携させる手法を検討してはどうか。
- 市内のタクシー業者と市で協定を結び、タクシーの初乗りの料金を低く設定して高齢者の利用を促進する事業を検討してみてもどうか。
- 高齢者が安全に運転を続けられるよう、交通安全研修や踏み間違い防止装置の補助の充実を図るのはどうか。

2. 公共交通のあり方について

(1) 市民が描く公共交通について

「懸念」

需要と供給のどちらを先に捉えるか、公共交通のあり方を考える。

検討すべき視点

- EU の都市交通計画の指針「持続可能な都市モビリティ計画」、通称 SUMP (Sustainable Urban Mobility Plans) のように、従来の公共交通を維持する考え方ではなく、移動手段を権利として保護し、まちづくりのビジョンと目的を決めてから逆算して施策や事業を実施する考え方で公共交通のあり方を検討してもいいのではないかと。

(2) 公共が担う範囲について

《懸念》

公共交通サービスを提供しなければならない対象をみんなで検討する。

検討すべき視点

- 誰が、どこへ、どんな時に、の視点から、公共がカバーすべき範囲を行政と市民、事業者のみんなで考え、公共交通の役割やサービスについて検討してみてもどうか。

3. 公共交通とまちづくりについて

《懸念》

自家用車を利用する人が多いため、通勤時の交通渋滞が多発している。脱炭素社会の実現を推進している太田市において、日常生活の移動手段を変えていく必要があり、脱炭素社会に適合するまちづくりを進めていく必要がある。

検討すべき視点

- 近所に出かける時や、通勤時は意識的に徒歩や自転車、公共交通機関を使うようにして、自家用車を使う時間が少なくできるよう市民一人一人が心掛けてはどうか。
- 交通渋滞緩和のために、企業に対して時差出勤などの措置を講じてもらうよう働きかける。
- 脱炭素社会実現のため、二酸化炭素観測装置を設置して、発生状況の見える化を図るなど。

4. 交通不便地域と担い手不足について

《懸念》

核家族化や地域コミュニティの希薄化により、移動手段に制限が出てくる人や地域が予想される。また、2024年問題による公共交通の担い手不足や高齢化による需要と供給のバランスが崩れることにより、交通不便地域が発生することが懸念される。

検討すべき視点

- タクシードライバーの担い手不足解消と地域コミュニティの希薄化による交通弱者発生を抑制するため、太田市に合ったライドシェアの導入を検討してはどうか。
- ライドシェア導入とあわせて、アプリで手軽に配車予約ができるようにしてはどうか。

自分ごと化会議

私に関係ある？ あり！